

2025年度「新たな灯台利活用モデル事業」募集説明動画

○アジェンダ

- ①「海と灯台プロジェクト」の紹介
- ②「新たな灯台利活用モデル事業」とは
- ③募集要項の説明
- ④応募資料について
- ⑤その他



海と灯台プロジェクトとは



灯台は、船舶交通の安全を支えるインフラ施設であるばかりでなく、
日本の近代史を知るうえでの重要な文化資産です。

いくつかの灯台が国の重要文化財に指定されるなど、灯台への関心が高まっていますが、
海外に比べ、灯台を利活用する需要が高まっているとは言えません。



**灯台を中心に地域の海の記憶を掘り起こし、
地域と地域、異分野と異業種、
日本と世界をつなぎ、
新たな海洋体験を創造していくプロジェクト** です。



「海と灯台プロジェクト」の目的・趣旨

1. 航路標識としての役割が変化した灯台の存在意義や継承理由を正しく伝える
2. 灯台が果たしてきた地域固有の役割や機能、存在価値を物語化する
3. 灯台が持つ多様な価値と利活用の可能性について、戦略的に取り組む

→灯台を訪れる人を増やし、海や周辺地域への興味関心を高める

「海と灯台プロジェクト」の実施体制



主催

一般社団法人 海洋文化創造フォーラム

共催

日本財団 海と日本プロジェクト

協力

海上保安庁

灯台立地エリア38都道府県のテレビ放送局

「海と灯台のまち」参画自治体

運営

「海と灯台プロジェクト」事務局

海と日本プロジェクトについて



「海と灯台プロジェクト」は
日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。



「さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。
そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、
海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。」

「海と日本プロジェクト」は、

灯台

海の民話

海と食

海の安全

海ごみ

etc

様々なテーマを通じて、海への興味関心を高め、アクションを促します。

新たな灯台利活用モデル事業とは



「新たな灯台利活用モデル事業」は、持続可能な灯台利活用事業の開発を実施する団体に対して資金面および企画運営の助言等のサポートを行う事業です。灯台を訪れる人を増やし、海や周辺地域への興味関心を高めることを目的とした単体または複数の灯台を活用する事業企画を対象とします。

<https://toudai.uminohi.jp/model-2024/>

▼2024年度:

15事業を採択(助成および実施サポート)

▼2022年～2024年度累計:

のべ38事業を採択(全国21灯台に関連した事業)

※「海と灯台利活用チャレンジ企画事業」という、「新たな灯台利活用モデル事業」の前段階的な事業も2024年度から開始。
(2024年度は5事業を採択)



重要な視点「灯台×〇〇」

「何故、灯台はそこに立っているのか。」
地域の魅力(灯台) × 地域の魅力(〇〇)



灯台×音声ガイド



募集要項：募集事業2コース



①調査検証コース

申請段階で、対象とする単体または複数の灯台を訪れる人を増やすための「灯台利活用事業の仮説」を設定する。その検証および事業の持続可能性の向上に向け、調査等を行う(必須)。また、調査結果を活かした事業の実証実験を行う(任意)。

※調査手法の案や詳細については「[調査検証・利活用事業企画のためのレクチャー](#)」をご覧ください。

※初年度の事業は、こちらのコースからスタートとします。

②利活用実施コース

対象とする単体または複数の灯台を訪れる人を増やすための、イベントや体験プログラム、教育プログラム等の実施、灯台や旧官舎等の施設の整備などを行う。

※事業期間終了後の事業継続・施設維持を念頭に置いた実施内容、初期投資、運営体制構築等に限る。そのため、原則、イベントや体験プログラムは参加費を徴収し、開発商品について適正な価格で販売を行うとともに、アンケート等で参考意見を収集する。施設等は維持管理の体制や費用を念頭に置いて整備する。

募集要項:スケジュール

<スケジュール>

応募〆切	2025年5月9日(金)
採択結果の通知・契約手続き	2025年6月
事業実施期間	2025年6月～2025年12月31日(水) ※1
助成金の支払い	2025年7月
中間報告書の提出	2025年9月
中間発表(東京都内)	2025年10月(予定) ※2
事業完了日	2025年12月31日(水)
事業完了の書類等提出	2026年2月 ※3
最終成果発表(オンライン)	2026年2月(予定)
監査	2026年2月～3月

※1 審査の状況等により、開始日は前後する

※2 中間発表は、東京都内で実施する「海と灯台サミット」に参加して行う(必須)
なお、このための旅費を事業費に含んで構わない。

※3 事業完了の書類等とは、最終成果報告書、完了報告書・収支計算書、
収入・支出に係る証憑(納品書、領収書、通帳コピー等)、写真・動画データ、
各種成果物等である。(事業開始後に詳しく説明いたします。)

募集要項：助成上限金額・助成率・総事業費

<助成金>

- ①調査検証コース 1事業あたり上限500万円(税込)
- ②利活用実施コース 1事業あたり上限1,500万円(税込)

※いずれも、総経費に対する助成率は80%(1万円未満切り上げ)とする。

<総事業費と助成金シミュレーション>

▶①の場合

総事業費625万円の時、助成金額は上限の500万円。
差額の125万円は、自己負担金で賄う必要がある。

▶②の場合

総事業費1875万円の時、助成金額は上限の1500万円。
差額の375万円は、自己負担金で賄う必要がある。

※なお、総事業費の上限自体に制限はない(多くても少なくても良い)。

募集要項：応募資格・実施体制

＜応募資格＞

幹事社1社(法人格を持つ企業または団体、地方自治体、観光協会、地域活性化事業等の実績を持つ任意団体のいずれか)と構成員1者以上からなる**コンソーシアム**。

事業の実施以降も引き続き灯台の利活用に関する取り組みを続ける見込みのある団体であることを要する。

△△△コンソーシアム

＜構成員＞

- ・株式会社A
- ・Bさん
- ・C観光協会
- ・D市
- ・チームE

＜コンソーシアムを求める理由＞

- ・1つの団体からの知見だけではなく、異業種・異分野を巻き込み、多種多様な視点を踏まえて、灯台の利活用の可能性を最大化するため。

※コンソーシアムのメンバーである必要はないですが、事前に、対象の灯台がある自治体と海上保安部との調整は済ませてください。

応募に必要な書類

<提出物>

応募〆切: **5/9(金) 17:00**

①調査検証コース

- ・申請書(指定フォーマットあり)
- ・収支予算書(同上)
- ・申請内容補助資料(様式任意。仮説を設定した経緯、実施体制等がわかるもの)
- ・コンソーシアム協定書のコピー(様式任意。参考フォーマットあり。)

②利活用実施コース

- ・上記①の4点
- ・施設、整備の改修等を行う場合は、下記の3点を追加で提出(様式任意)
 - 現状の図面と改修図面案
 - 改修等の見積書
 - 行政等関係団体との合意書

応募に必要な書類: 申請書



【調査検証コース】

- ◆調査検証の目的や、背景
- ◆明らかにしたい仮説
 - ・「灯台×○○の事業で、灯台を訪れる人を増やす」の「○○」の設定
 - ・仮説の内容について
- ◆調査検証の方法
 - 【対象灯台の基礎的調査】
 - ・基礎データ、設置された経緯、関係者インタビュー
 - ・上記を踏まえた一般向けの紹介文作成
 - 【対象灯台のオリジナル調査】
 - ・外的要因
 - ・灯台が立地する周辺環境(気候や地形による影響、安全性など)
 - ・灯台と周辺施設の整備状況(インフラやアクセスの状況)
 - ・地域における他団体等の活動の有無と連携の可能性
 - ・都道府県や市町村の動向とサポートの可能性(資金調達も含む)
 - ・内的要因
 - ・事業規模や実施体制の検討(人的リソースや収支の検討を含む)
 - ・事業化に向けて今後解決すべき課題
 - ・事業化に向けたスケジュールの計画
- ◆【実証実験】
- ◆本事業を多くの人に知っていただく工夫や、将来的なニュースバリューを高めるための施策

【利活用実施コース】

- (1) 企画概要
- (2) 事業背景
- (3) 達成目標・達成時期
- (4) 企画運営パートナーと、パートナーにとっての利益
- (5) 事業活動として何をするのか(価値を提供する源泉となる活動)
- (6) 顧客ターゲットと提供するベネフィット
- (7) チャネル(顧客に事業の価値を届ける経路、確認する経路)
- (8) 顧客との長期的な関係構築のために実行できる施策
- (9) 事業に必要なリソース(人、物、情報、許認可)
- (10) 事業運営コスト構造(初期投資、ランニングコスト)
- (11) 収益の流れ(提供価値に対する売上、課金方法) 施策
- (12) 将来的なニュースバリューを高めるための施策
- (13) 補足

※事業内容を判断する唯一の場所です。「5W1H」を用いて、具体的にご記入ください。

※記入例が申請書ファイルの別のタブにあります。そちらもご覧ください。

応募に必要な書類: 収支予算書

<収支予算書>

・青色セルのみに入力をお願いします。
 (灰色セルには計算式が入っています。計算式は崩れないようにしてください。)

・申請書の内容をもとに、実施する事業ごとに事業番号を振り分けて、収支予算書をご記入ください。
 科目ごとに具体的な費用を分ける際も、事業番号の紐づきにより、「支出」の欄で自動的に事業内容ごとの金額が集計できます。

事業番号	事業内容	金額 (円)	事業費全体の割合 (自動計算)
1	○○灯台の基礎調査	500,000	11%
2	灯台の周辺状況と多面的な価値調査	460,000	10%
3	連携や事業化の可能性調査	320,000	7%
4	クルーズの開発とモニターツアーの実施	2,110,000	48%
5	事業内容全般にかかる広報と事務局運営	1,000,000	23%

・「科目」については、募集要項内、「10.対象となる経費」から選択してください。
 また、「11. 対象とならない経費」も併せてご確認ください。

【対象となる経費一覧】※詳細については募集要項参照のこと
 委託費、旅費交通費、消耗什器備品費、印刷製本費、通信運搬費
 会議費、諸謝金、広告宣伝費、事業管理費、雑費、建設費、設計費

科目	科目合計 (自動計算)	事業番号	項目名
事業管理費	840,000	5	事務局人件費
		5	広報担当人件費
委託費	2,140,000	1	基礎調査費
		2	報告書作成費
		3	ワークショップ企画運営
		4	クルージングプログラム開発
		4	モニターツアー企画費
		4	モニターツアー実施費
消耗什器備品費	300,000	4	クルーズ船保険料
		4	救命胴衣購入費用
		4	客席設置費用

その他:「海と灯台利活用チャレンジ事業」

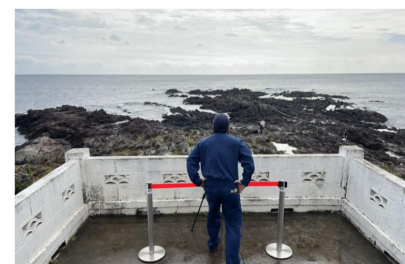
釣島灯台 (愛媛県松山市)

杉作J太郎さんの提案により1年越しに実現!「杉作J太郎とリリー・フランキーの『灯台ラジオ』」を灯台旧官舎より生放送



薩摩長崎鼻灯台 (鹿児島県指宿市)

灯台の下で「想いを叫ぶコンテスト」などを実施した「薩摩長崎鼻灯台イベント」の開催



灯台活用イベントや、灯台に関する情報発信、コンテンツ制作などの実施支援

支援額:1事業あたり110万円(税込)

2024年度事業詳細 ① [釣島灯台](#)、② [三国灯台群](#)、③ [薩摩長崎鼻灯台](#)、④ [御前埼灯台](#)、⑤ [尾道灯台群](#)

詳しくは [こちら](#)

その他：海と灯台ウィーク

海と灯台ウィーク(2025年11月1日(土)～8日(土))期間中に何らかの取組みを!

海上保安庁や「海と灯台のまち」参画自治体(60市町村)と連携し、
全国の人々に「灯台にいこう!」と呼びかけるキャンペーンです。

皆様の地域でも、イベント実施や、キャンペーン広報への協力をお願いします。



海と灯台ウィーク × 海上保安庁関連イベント

「海と灯台ウィーク」開催にあたり、関連イベントを全国で実施予定。
各地のイベントと連携し、オリジナル缶バッジをプレゼント!



海と灯台ウィーク × 市町村関連イベント

49市町村を「海と灯台のまち」として組織化し、今年はそのうち48市町村に「海と灯台ウィーク」のキャンペーンステーションを設置。キャンペーン・オリジナル缶バッジもしくはキャンペーン・オリジナルシールをプレゼントします。また各市町村に「海と灯台ウィーク」ポスターを頒布。「海と灯台のまち」が連携してキャンペーンを盛り上げます。



ポスター



オリジナル缶バッジ



オリジナルシール

その他:海と灯台サミット



中間報告会と海と灯台サミット

新たな灯台利活用モデル事業の中間発表は、東京都内で実施する「[海と灯台サミット](#)」内で行います。(このための旅費を事業費に含んでも構いません。)

今年の海と灯台サミットは、10月中旬の2日間での開催を検討しています。(10月15, 16日が候補日)

1日目はシンポジウムや情報交換会を行い、2日目は中間報告会と海と灯台学の発表会の開催を予定しています。詳細が決まり次第、追ってお知らせいたします。



シンポジウム



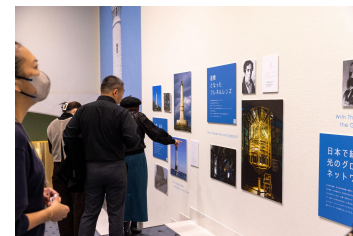
情報交換会



海と灯台学発表会



新たな灯台利活用モデル事業
中間報告会



海と灯台パネル展

お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡ください。

一般社団法人 海洋文化創造フォーラム
海と灯台プロジェクト事務局

内藤香海・阪口大輔・山口健

toudai@umi-nippon.com

080-9264-3366